

ナミダタケによる木材の腐朽

土居 修一 斉藤 光雄
伊東 英武 布村 昭夫*

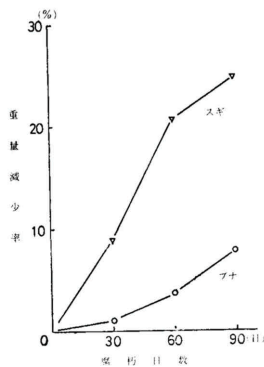
最近、道内で住宅、学校などのナミダタケ被害が問題となってきた。この菌による被害は昔から知られていたが、新築後3~4年目に被害を受けやすいということもあって社会問題化してきたわけである。ナミダタケに関する研究の歴史は古く、すでに1900年代初頭にはR. Falckがその生理、生態を克明に調べているが、わが国の被害に関しての報告はほとんどない。そこで、まず本報では旭川で分離したナミダタケを用いて木材腐朽力を調べることにした。なお、本報告の詳細は、日本木材学会北海道支部講演集第10号(1978)に掲載されている。

実験と結果

供試菌には、JIS標準菌オオウズラタケとナミダタケ菌を用い、JIS A 9302によってエゾマツなどの木材試片を20で強制腐朽させた。

まず、ブナとスギの腐朽試験を行い分離したナミダタケ菌株にどの程度の腐朽力があるかを調べた。その結果を第1図に示す。

次にいくつかの針・広葉樹材を各菌に暴露して、耐朽性にどのような傾向があらわれるかを調べた。その結果は第2図に示す。



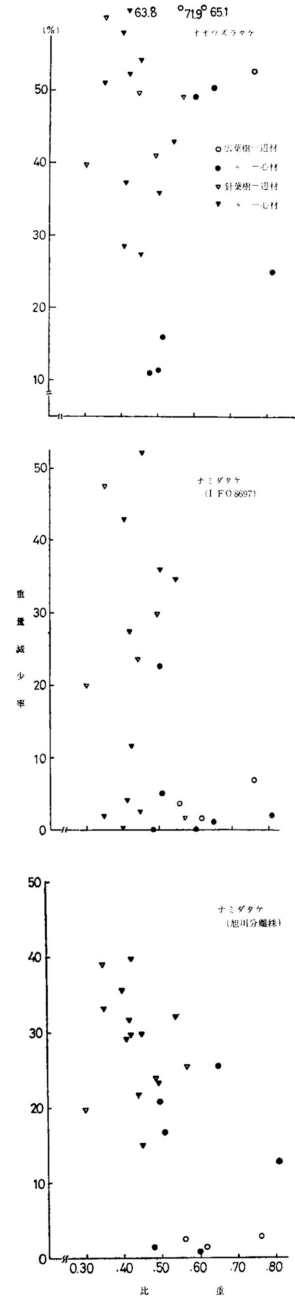
第1図 ブナ及びスギのナミダタケによる腐朽

〔林産式月報 1979年9月〕

合を除き全分離菌株が同程度の腐朽力を持つことを示した。

これらのことから、1) ナミダタケの腐朽力は、特に針葉樹材で強く発現するようであり、腐朽期間2ヵ月程度ではオオウズラタケの腐朽特性とは異なる。2) 分離菌株の腐朽力は、エゾマツ > カラマツ > トドマツの順に強く発揮される。3) 供試された樹種の範囲内では、比重と重量減少の間に特別な関係はない、ということが分かった

- 林産化学部
木材保存科 -
- *林産化学
部長 -
(原稿受理
昭54.4.18)



第2図 針・広葉樹材の腐朽